

学生からのメッセージ

一步を踏み出す

上地 有香 (福岡歯科大学 第5学年)

大学での四年間を振り返り、私は大きく変わったところがあります。それは、新しいことに挑戦したりして、積極的になったことです。大学に入学するまでは、ものすごく人見知りで、自分から一步を踏み出すことができませんでした。人前で発表したり、みんなの輪に入って行ったりするのが苦手で、周りの人は楽しそうだなと見ているばかりでした。



そんな苦い経験もあり、大学では何事にも積極的になろうと決めました。まず弓道部に入部し、デンタルや山口大会、女子大会などに参加しました。初めての場所でもいつもと違う雰囲気でも、足が震えることもあり、日頃の練習の成果を発揮することはできませんでしたが、先輩や同級生、後輩との仲が深まったり、上手い人を見ることができたりと、良い経験ができました。部活以外では学園祭実行委員にも挑戦しましたが、特に昨年度はCBT対策委員をさせていただきました。ここでは、他大学の方と交流する機会があり、勉強の仕方など貴重な話を聞くことができました。また、模試の日程を決めるときにみんなの意見をまとめるのが大変でしたが、先生と一緒に対策委員をやってくれた同級生に助けられ、無事に終えることができました。

何かに挑戦することは、初めは恐かったり上手くいかなかったりしてつらい時もありますが、それ以上に人と関わる楽しさや達成感が得られ、行動しなかった時よりもたくさん事を学べました。このような経験を生かして、積極的になるということを忘れずに、日々精進してこれからも頑張っていきたいと思っています。

保護者からのメッセージ

基礎を築く

6年間の
 医学教育で、
 歯科医師としての基礎を
 築いてこれか
 ら長い道のり
 が待っています。その中で、現代社会の潮流はますます速さを増し、歯科医学を取り巻く情勢の流れも速く、情報を選択に失敗すると、そのどれもがすぐにでも自分の臨床に必要不可欠だと思ひ込みがちです。最先端の医学を知らなければ臨床が成り立たない事はなく、流行を追うことよりも、人間と向き合う臨床医学の底流部分にしっかりと根をおろして、短期間のうちに変わることは少ない基礎をしっかりと身に付けて下さい。既に確立されている論理と術式は、一見陳腐に見えるかもしれませんが、長い臨床の中で多くの努力と叡智のもとに育まれた結果築かれたものです。これらの基礎の上に応用が成り立つのです。最後に6年間の学生生活で人との交わりを大切にして下さい。これもこれからの歯科医師としての人間関係の礎となり、大切な事です。



姫田 東高 (福岡歯科大学学生後援会評議員)

New Sophia
 コラム

海を観る

春は巣立ちの季節です。卒業と入学という行事が短期間に行われる慌ただしい季節でもあります。ここ福岡学園でも、期待と緊張に頬を紅潮させた新入生の皆さんの足音が上層階にいても伝わってくるようになりました。若く力強い足音が階段に反響して、あたかも春の潮騒のように聞こえます。

先日或る卒業式において、大学とはこれまでに乗ってきた列車を降りて海を見る場所、と例えられておりました。まさに、人生において二度とは無い貴重な期間であり、足下には、知識に満ちた紺碧の海が広がっています。これまでは列車の窓から見え隠れしてきたそれぞれに異なる海を、風を受けてゆったりと見る事が出来るのです。社会人としての新たな切符を手にするために学ぶことは勿論のことですが、深い海底に揺らめいている白珠のように精緻な知識の輝きを臨み、そして手に取られるのも、また良いかも知れません。

(岡 すがこ)

編集後記

学園の第三期中期構想、福岡看護大学開学の特集記事などあり増ページとなりました。今号から「みんなの声(Affluent Voices)」のページを新設し、学園の皆様から寄せられた情報の発信を拡充しています。看護大学についてもっと詳しく知っていただくための「看護大学だより」、医療短大の話題をお届けする「短大VOICES」が今号からスタートしました。(KS)